

非浸潤性乳管がんの 診断と治療 (治療編)

山口大学大学院医学系研究科 消化器・腫瘍外科学

前田 訓子

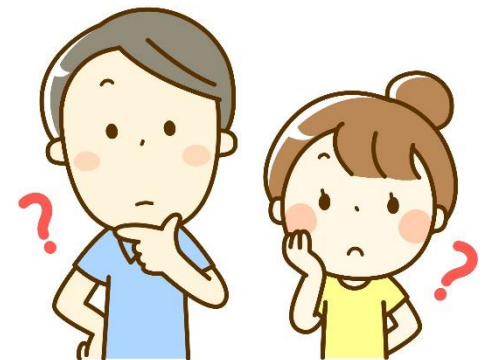
はじめに

- 非浸潤性乳管癌（DCIS）の治療にあたり常に浸潤癌が存在する可能性も考えて治療計画を立てる必要がある。
一方、低リスクのDCISも存在すること、過剰過小の治療にならないよう留意することも重要である
- 診断を受けた患者さんにとっては
予後が良い非浸潤がんでも「乳がん」であり、エビデンスだけでなく患者さんの背景にも配慮し適切な治療計画をcoordinateする必要がある。

DCISの治療を考えるうえで必要な項目

治療に関する事項

- 1.術式選択（温存手術と乳房切除の比較）
- 2.温存例における断端評価とマネージメント
- 3.温存乳房照射の意義
- 4.DCISにおけるバイオロジーの意義、多遺伝子解析
- 5.非浸潤性病変に対するセンチネル生検の意義
- 6.術後内分泌療法の意義
- 7.術後サーベイランス
8. その他
NSM、SSMの安全性や治療成績、同時再建について
家族歴濃厚BRCA陽性の場合には
若年者の妊孕性温存や術後の妊娠・出産について
内分泌療法に関する有害事象マネージメントに関するエビデンス



症例（30歳代 女性）

現病歴：

不妊治療の経過中に子宮頸部腺癌の診断で手術予定であった。
婦人科術前の全身検索目的のPET-CTにて左乳房に集積を
指摘されていた。婦人科術後、乳房の精査目的に紹介受診となった。
自覚症状はない。

既往歴：子宮頸癌（stage1A1）に対して円錐切除術

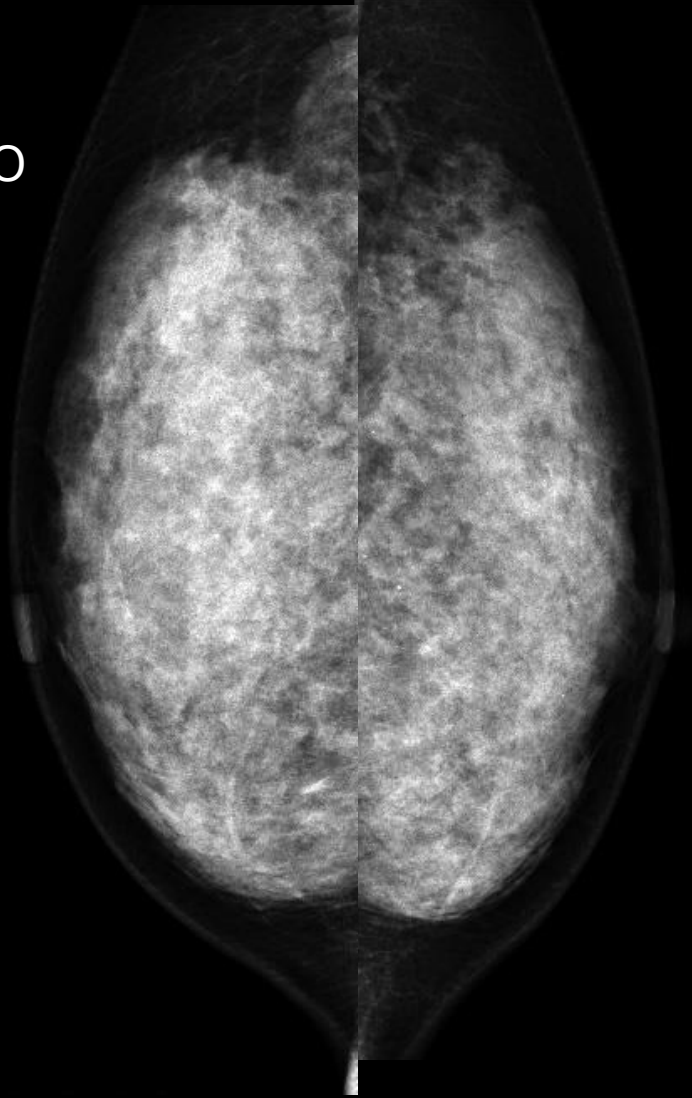
家族歴：乳癌卵巣癌家族歴なし

理学所見：両乳房に明らかな腫瘤を触知せず。
両乳頭分泌なく、腋窩リンパ節腫大なし

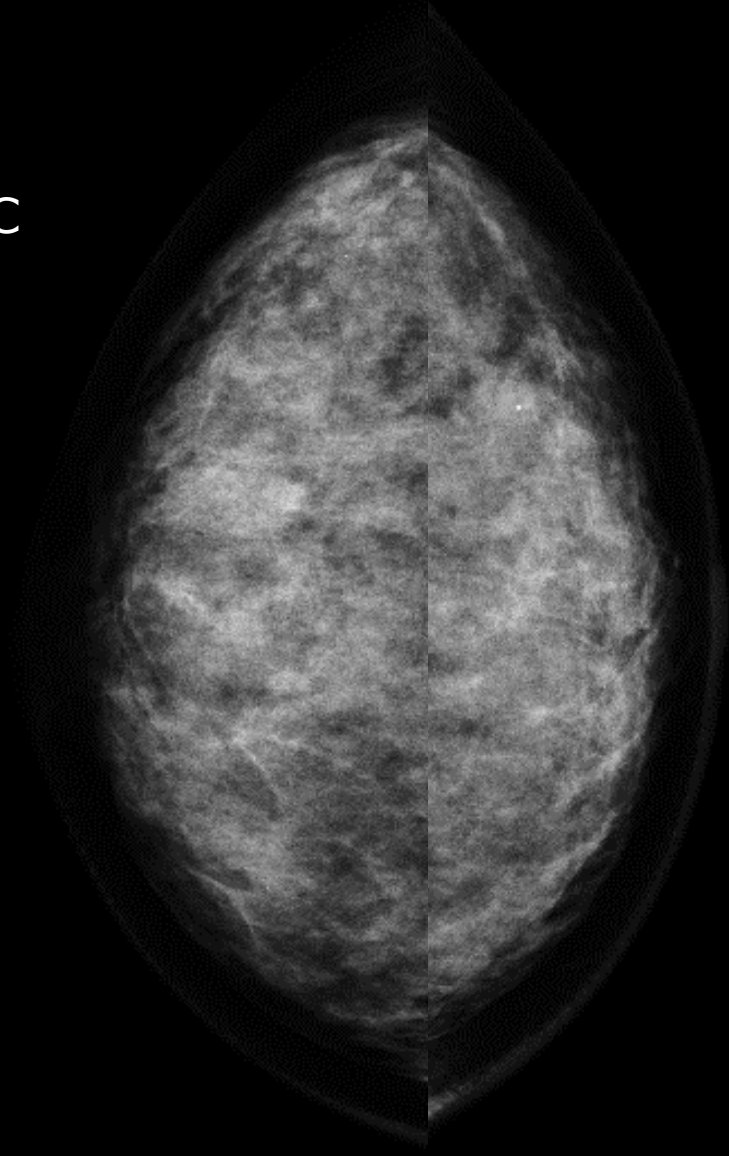
第17回 日本乳癌学会中国四国地方会 教育セミナー
非浸潤性乳管がんの診断と治療

MMG

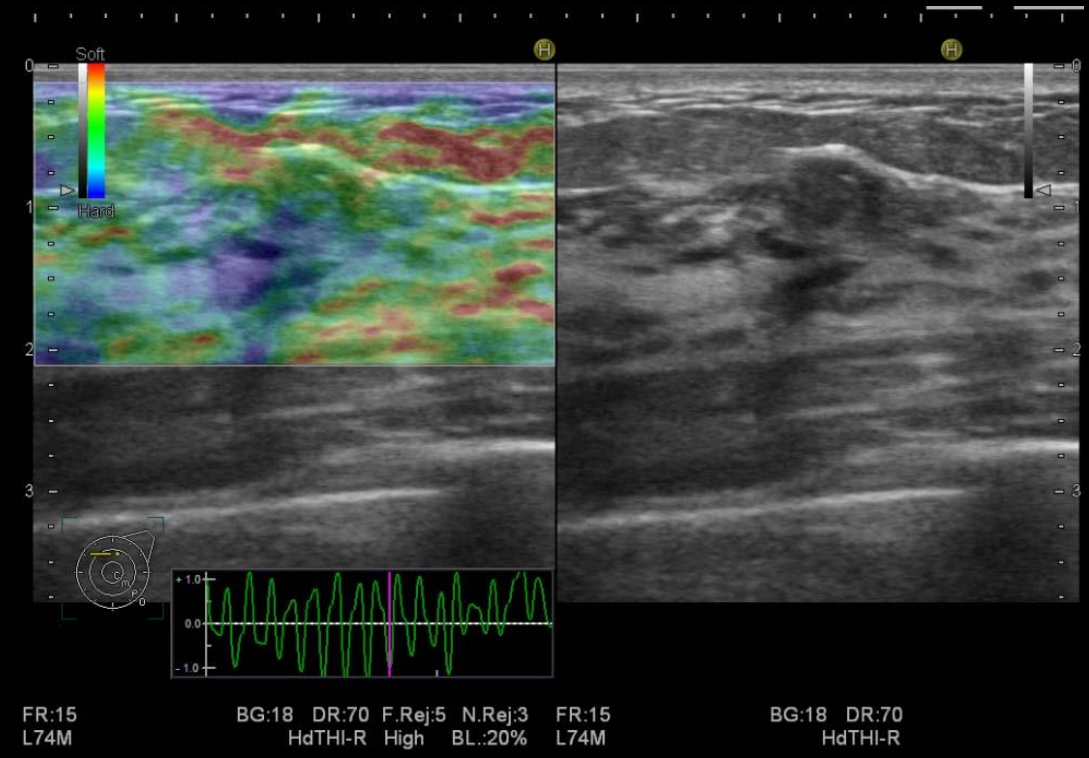
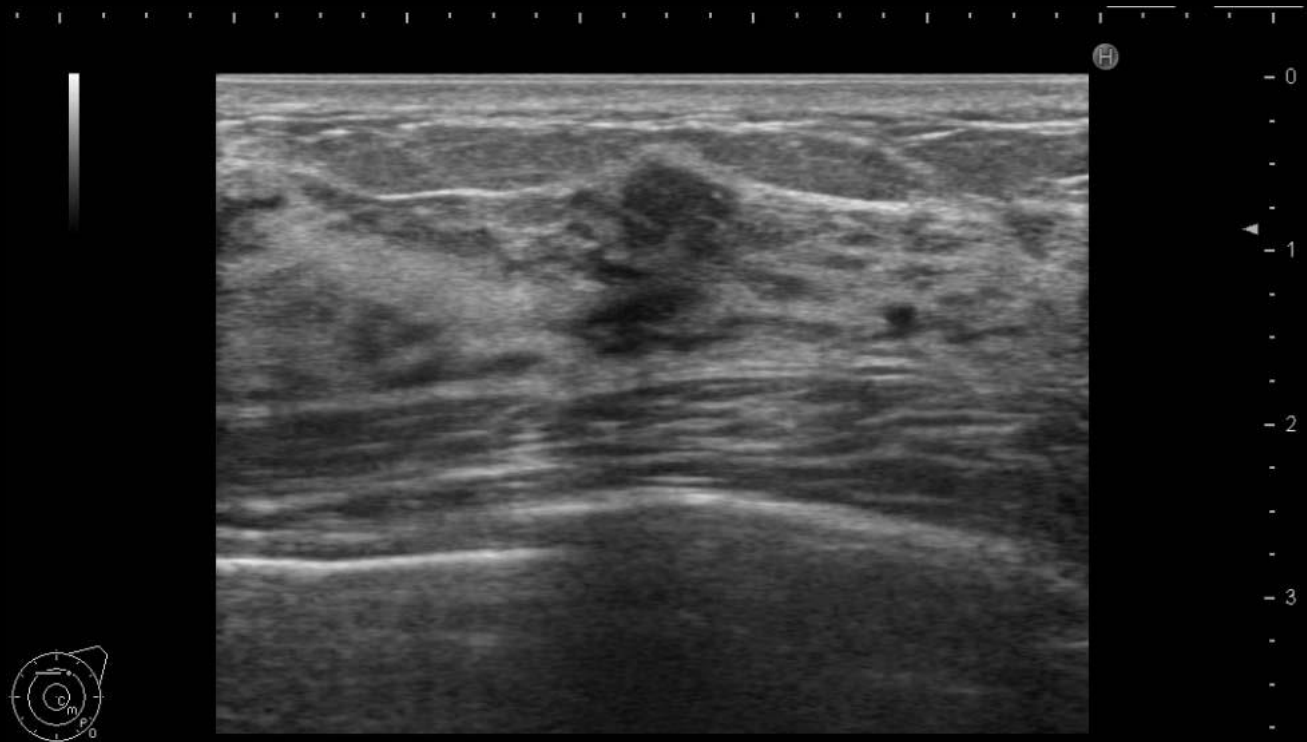
MLO



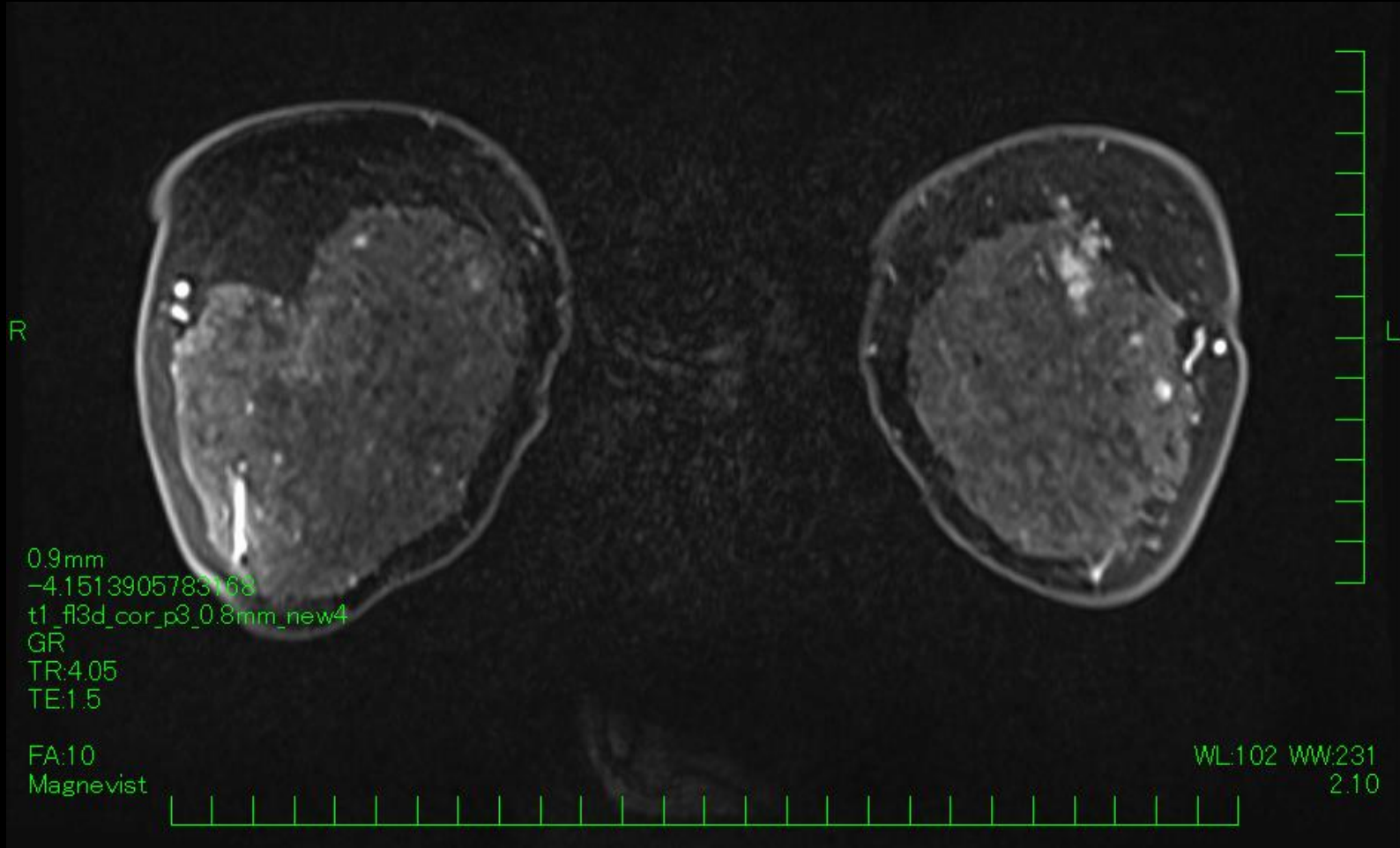
CC



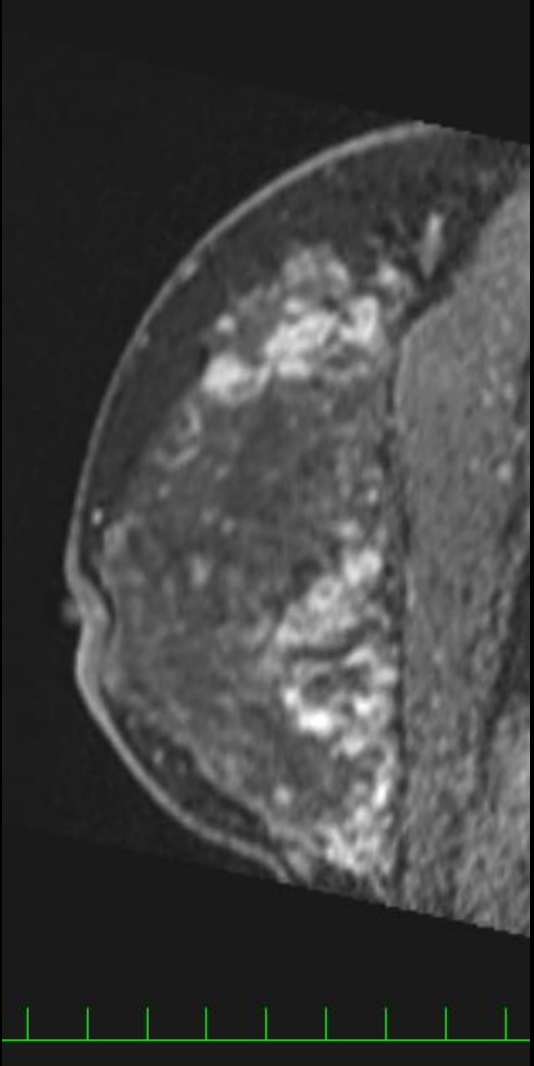
US



乳房造影MRI



左側



本症例の画像所見について

MMG :

背景乳腺の評価とカテゴリー分類について

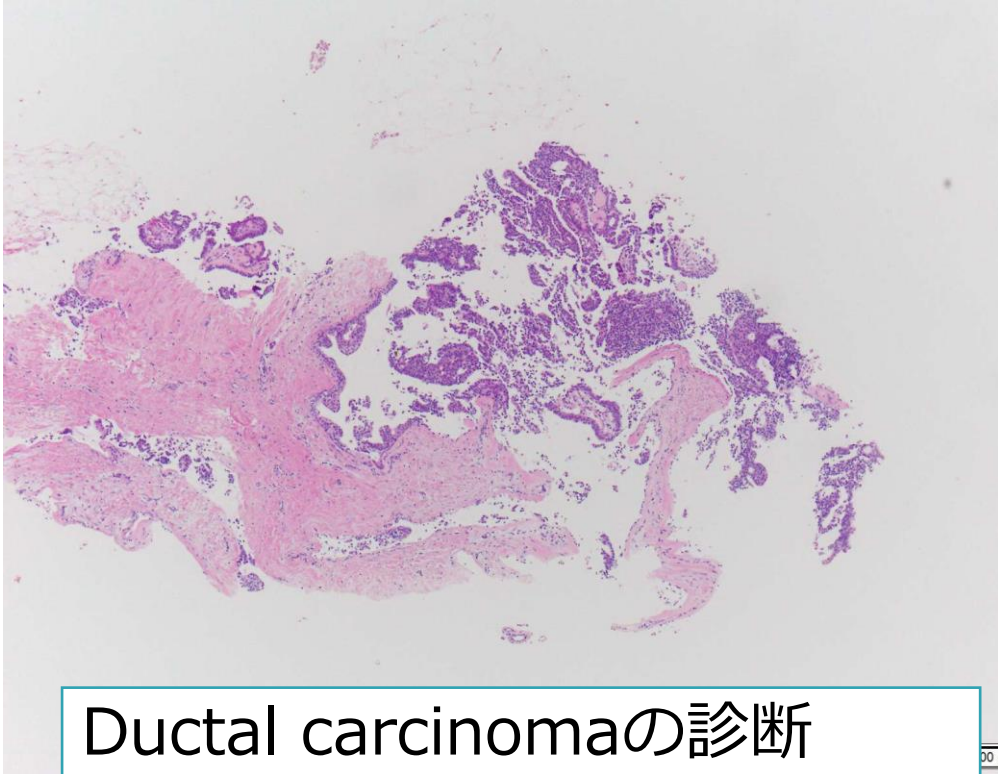
US :

カテゴリー分類と鑑別診断について

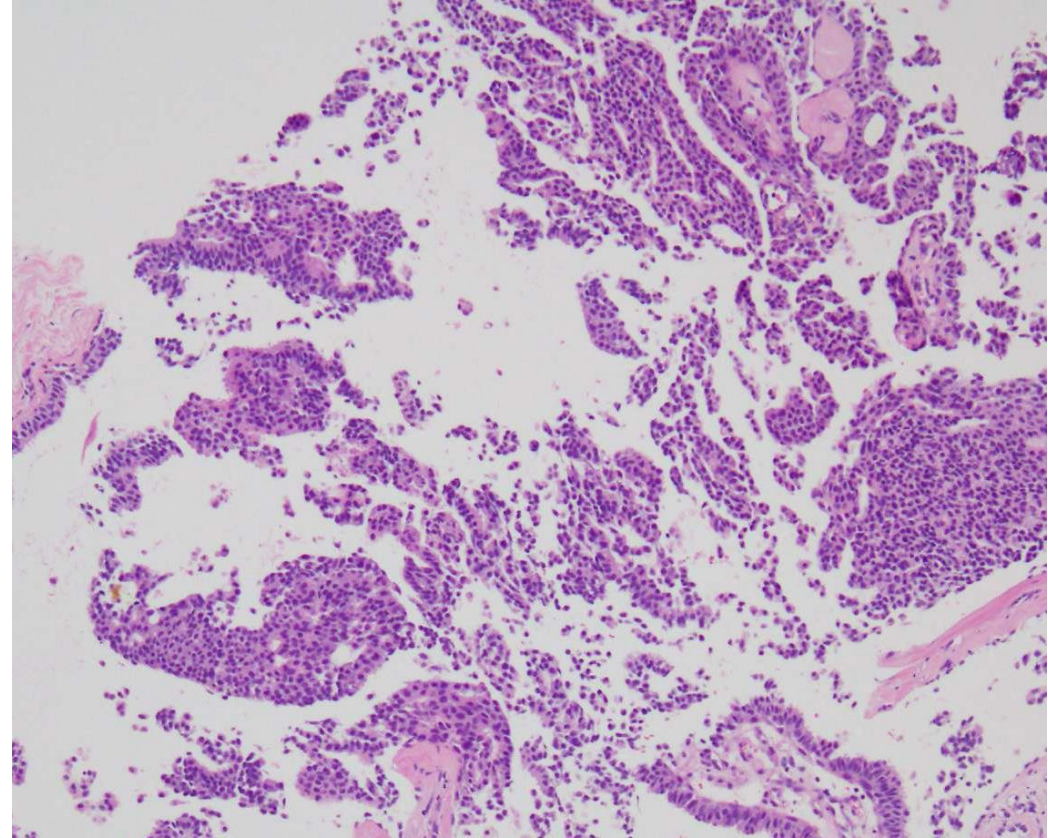
乳房造影MRI :

所見と鑑別診断について

エコーガイド下針生検



Ductal carcinomaの診断
検体内でのComedo壊死 (-)



診断のポイント

- 子宮頸部腺癌のフォロー中に発見されたDCIS
- MMG,超音波検査では浸潤癌を強く疑う所見を認めなかった。
エコーガイド下針生検ではDuctal carcinomaの診断。
- MRIではmultifocal、領域を超えた病変が疑われた。

手術治療としての選択肢は？

病変の広がりからは乳房全切除術

通常 of 乳房切除術

再建を目指した乳房切除術

皮膚温存乳房切除術

乳輪乳頭温存乳房切除術

センチネルリンパ節生検は？

本症例の治療方針について

- 病変の広がりからみた術式選択
- センチネルリンパ節生検の適応について
- 術後のフォローについて
- 乳房再建時期について